



どこからでもらくらく接続できる 「クラウド型仮想デスクトップ」を構築

Tintriを基盤にして新サービス「Racdes」を立ち上げ、新しい収益の柱とすることをめざす

WBC

ワールドビジネスセンター
株式会社

クラウド型仮想デスクトップ「Racdes」の基盤に採用

1966年に大阪でデータエントリー専門業者として創業し、以来京都を本拠に50年にわたってITソリューションを提供してきたワールドビジネスセンター（以下、WBC）。医療や大学を中心にしたシステム運用管理、システム開発、パッケージ開発という3事業は、全国40の大学、35の医療機関との取引実績があり、WBCの現在の主力事業となっている。

システム運用管理では、医療情報システムや大学のネットワークに関する業務を同社の常駐社員がリアルタイムにサポートすることが特徴だ。システム開発やパッケージ開発では、診療録管理システム「M.reco」や、インシデントを収集してヒヤリハットの防止や情報共有を行うインシデントレポート管理システム「@iras」などを展開し、現在では約400病院に導入されている。

そんなWBCが2017年に新規ビジネスとして立ち上げたのがクラウド型のVDIサービス「Racdes（楽です）」だ。同社ソリューション事業本部ソリューション営業部サービス企画課の奥田健二氏はビジネス立ち上げの経緯についてこう話す。

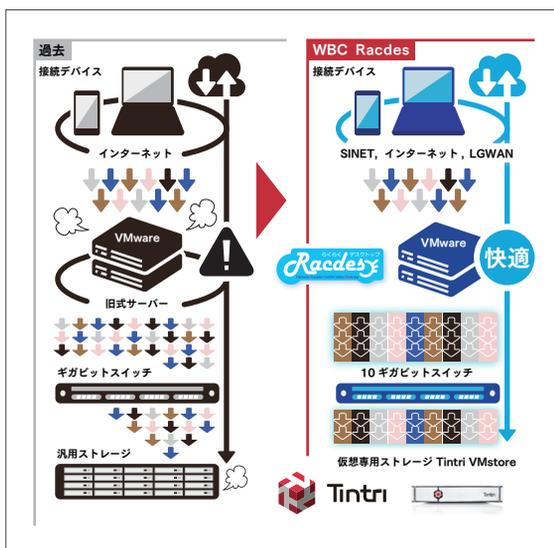
「既存のお客さまからシステム運用管理だけでなくデスクトップ環境も含めてまとめて管理してほしい、どうせならWBCでクラウド化して提供してくれないかという要望を受けました。われわれの強みのひとつは客先に常駐してニーズに合ったきめ細かいサービスを提供できること。そこで、使いやすいVDIサービスを企画したのです」（奥田氏）

顧客の不満を解消し、使いやすいVDIサービスを

情報を収集するなかでティントリの西日本支店とのつながりが生まれ、Tintri VMstoreをサービス提供基盤に利用することを決定した。採用のポイントのひとつは、顧客側にあったVDIへの不満を解消できることだった。

「VDIに対する不満が大きく、なかにはトラウマのように感じている方もいました。不満の原因は、起動の遅さです。大学などでは授業が行われるたびにログオフとログインが繰り返され、ログオフストームとログインストームが同時に発生していました。I/Oパフォーマンス劣化の影響を受けやすかったのです」（奥田氏）

サービス開発ではまず1,200VMが稼働する既存環境にTintri VMstore T850を導入してさまざまな視点から検証を行った。検証した項目としては「設計」、「パフォーマンスチューニング」、「パフォーマンス低下時の原因特定」、「プロビジョニング」、「ディスクI/O」、「Windowsへのログイン時間」、「スワップ」などがある。



クラウド型VDIサービス「Racdes」では、適切なリソースが確保されるので容量不足や過剰スペックが排除され、さらに管理面での利点も大きい

業種

情報処理事業

事業概要

システムインテグレーションサービス／システム運用管理・運用の受託／コンピュータおよび周辺機器、消耗品などの販売

主な課題

- ・新たに仮想デスクトップサービスを立ち上げたい
- ・仮想マシンの増加でパフォーマンスが劣化する
- ・管理が複雑でエンジニアの負担が大きい

ビジネス上のメリット

- ・仮想マシン単位の管理や自動QoS、プロビジョニングの速さ、パフォーマンス劣化がなく安定した動作など、顧客のニーズを満たす機能が豊富に揃っているため、サービス展開がしやすかった
- ・仮想デスクトップを提供するためのクラウド基盤構築にさまざまなアドバンスを受けることができ、一緒に新しいサービスを立ち上げて成長させることができた

